

Th1/Th2 バランスに及ぼす新しい和漢薬製剤 (富山オリジナルブランド)の効果

○地野 充時^{1,2)}、手賀 栄治²⁾、櫻井 宏明²⁾、谿 忠人³⁾、寺澤 捷年¹⁾、
 済木 育夫²⁾

富山医科薬科大学・医学部・和漢診療学講座¹⁾、
 富山医科薬科大学・和漢薬研究所・病態生化学部門²⁾、
 富山医科薬科大学・和漢薬研究所・漢方薬学部門³⁾

我々は補剤としての役割のみならず、近年増加している生活習慣病にも対応する目的で和漢薬製剤を創作し、富山オリジナルブランド(処方 A, B)と命名した。本製剤に配合される生薬に関しては、種々の免疫学的活性が報告されている十全大補湯を参考にし、オリジナルブランド医薬品開発研究会により選定された。処方 B の構成生薬は十全大補湯に含まれる当帰、芍薬、川芎、人参、黄耆、桂枝に、牛黄、蛇床子、大蒜を加えたものである。この処方 B に厚朴、延胡索を加えたものが処方 A で、従来、人参主薬製剤には配合されていなかったこれらの生薬を加えたところに本製剤のオリジナリティがある。そこで今回、処方 A, B をマウスに経口投与し、脾臓細胞からのサイトカイン産生およびリンパ増殖能について検討した。BALB/c マウス(6週齢、雌)を用い、処方 A, B、水投与群に分別し、さらに DNP-KLH + Alum 免疫群と非免疫群に分別した。これらのマウスから調製した脾臓細胞を *in vitro* でマイトジェンまたは抗原刺激を行った。その結果、非免疫群では処方 A, B ともに、Th1 サイトカインである interferon- γ (IFN- γ) の産生を上昇させ、Th2 サイトカインである interleukin-4 (IL-4) の産生を抑制した。また、DNP-KLH + Alum 免疫群では、処方 A は IFN- γ 産生を上昇させ、IL-4 産生には影響しなかった。一方、処方 B は IFN- γ 産生には影響を与えなかったが、IL-4 産生は抑制した。また、リンパ球増殖能に対しては、処方 B は影響を及ぼさなかったが、処方 A は有意に増殖能を誘導した。以上から、処方 A, B はともに Th1/Th2 バランスを Th1 に偏向させることが明らかになった。さらに、処方 A はリンパ球の増殖能を活性化する作用を併せ持つことから、処方 B より強い免疫賦活作用を持つことが期待される。